

沖縄気象台

主な採用区分

物理、化学、デジタル・電気・電子、土木

物理、化学、デジタル・電気・電子、土木区分の主な業務

01



01 気象庁の業務は、自然現象を常時監視すると共に、気象、地震、津波、火山活動に関する情報を発表している。それらの業務は幅広く、また異なる業務であってもそれぞれ少なからず関連があるため、採用区分にこだわらず様々な業務に携わることができる。

02



02 沖縄気象台では気象状況を24時間体制で監視し、観測データや数値予報をもとに気象災害の防止・軽減、二次災害防止を目的とした防災気象情報や、日々の生活を支える天気予報などを発表している。

03



03 多くの職員で情報を共有しながら、毎日の予報業務を行っている。数値予報による予測精度は年々進歩しているが、最後に決断を下すのは長年経験を積んだ予報官である。

04 たえず変化している大気の状態を知るために、沖縄気象台の敷地内には「露場」と呼ばれる地上観測地がある。露場では地表面付近の気圧、風向・風速、気温、湿度、降水量及び日照時間、雲、大気現象(雨、雷、霧等)を観測している。そのデータは、天気予報、防災気象情報、農業、漁業、交通の安全等あらゆる分野で利用されている。

04





05 災害発生時において、今後の防災気象情報の改善に資するよう、現象の実態解明のため職員【気象庁 機動調査班(JMA-MOT)】を派遣し、現地調査を行っている。写真は突風調査の様子。突風により木が折れている。地域住民からの聞き込みなども行い、各種情報を収集・共有・整理し、調査結果について、迅速に地元自治体に報告すると共に、報道にも公表している。



06 沖縄県内各地には、観測データを収集するため様々な観測地がある。写真は地震観測局である。多様な地震動(揺れの大小、周期の長短など)を観測するために、各種の地震計を設置している。

その他にも潮位観測施設などがあり、潮位をリアルタイムで観測し、潮位や津波の監視に利用している。

先輩職員に聞く仕事の魅力！

南大東島地方気象台
一般職員

しま たくや
島 拓也

2016年 大阪管区気象台 気象防災部地震火山課 採用
2018年 鳥取地方気象台
2020年 沖縄気象台 予報課
2021年 南大東島地方気象台 現職



私が気象庁を希望した理由は、小さい頃から台風が身近にあって、気象に興味を持ったことがきっかけです。気象庁の仕事と聞くと「天気予報」のイメージが強いと思いますが、地震や火山、海洋など予報以外にも多くの業務があります。

私は、採用された大阪で「地震」、鳥取で「観測」、沖縄で「予報」と様々な業務に携わりました。どの業務も気象庁が社会に貢献するために欠かせないもので、やりがいのある仕事でした。

気象庁には、様々な分野で社会に貢献できる仕事があります。気象が専門でなくても、興味のある方は働いてみませんか？

■お問い合わせ先

沖縄気象台総務課人事係

〒900-8517 那覇市樋川1-15-15 那覇第一地方合同庁舎 西棟5階

TEL：098-833-4281

<http://www.jma-net.go.jp/okinawa/>

